

# SCOUTING 茨城

1994年・9月☆茨城県連盟広報委員会発行

## 茨城に富士スカウトが誕生！

待ちに待った「富士スカウト」が、茨城県連盟発足以来42年目にして初めて3名が誕生しました。

平成4年度に水戸第4団の 塚本 崇君

茨城県第1号 日本連盟授与No 1679号

平成5年度に牛久第4団から2名

牛久第4団 鈴木 貴宏君

茨城県第2号 日本連盟授与No 1778号

牛久第4団 室井 裕介君

茨城県第3号 日本連盟授与No 1779号

塚本君は平成5年3月28日に県連盟での面接会を開催し、日本連盟でも3月28日付で授与。

鈴木・室井両君は平成5年12月2日に面接会を開催し、日本連盟は12月27日付で授与された。

茨城県連盟では、平成5年4月18日の理事会の席上で塚本君と大内団委員長・小堀通治隊長同席のうえ、理事・各種委員長全員で交付式を開催し、お赤飯でお祝いしました。

また、鈴木・室井両君は、平成6年1月30日の理事会で海老原団委員長・櫛田副委員長・室井高城隊長同席のうえ、理事会全員でお祝いしました。

### = 皇太子殿下にご拝謁 =

平成6年3月29日、第12回富士スカウト顕彰のため上記3名は日本連盟に集合し懇談の後、翌日東宮仮御所に参殿し、皇太子殿下から一人ひとりにお言葉をいただき、感激をしたそうです。

次に内閣総理大臣を表敬訪問しましたが、国会の会期中で、官房長官から激励の言葉があり、次に文部省を表敬訪問し、事務次官からお言葉を戴いて解散しました。

この3名のプロフィールと富士スカウトの個人プロジェクトについて記載します。



塚本 崇君

塚本君は、現在英国のロンドン大学の1年生で政治学を専攻されており、「富士スカウト顕彰」のため、わざわざ帰国されました。

塚本君の富士スカウトの個人プロジェクトは「千波湖の今昔」で、写真を含めて106枚の文献を提出され、その内容は日本連盟でも大きく評価しており、専門家でも出来ない素晴らしい内容でした。

3月31日に事務局を訪問され、英国でスカウト活動をすることことで、国際紹介状を日本連盟に申請しましたが、堀江事務局長から英国で講習会・研修所にチャレンジすることをお願いしました。

また、ギルウェルパークとブラウンシー島を訪問されることを進めました。

4月3日に富士スカウト顕彰を終わって英国に帰られました。英国でのスカウト活動を心から期待しております。



鈴木 貴宏君

鈴木君の富士スカウトの個人プロジェクトは、「日本の鉄道」であり、日本の鉄道の歴史が100枚の文献に詳しく記されており、その内容は、JRの関係者も驚くほどの内容でした。

鈴木君は将来鉄道関係の仕事をしたいとのことでした。素晴らしい鉄道マンになることを祈っております。



## 室井 裕 介 君

**室井**君の富士スカウトの個人プロジェクトは、「カッパの伝説と生態」というユニークなもので、日本連盟でも個人プロジェクトとしては、珍しいとの評価があったそうです。

カッパの伝説が素晴らしい内容で書かれております。

以上3名の素晴らしいプロジェクトについてお知ら

せしましたが、スカウト個人の努力も大変なものです  
が、その指導にあたった隊長や副長の並々ならぬ努力  
と、指導力を忘れてはならないと思います。

日本連盟の富士スカウトのプロジェクトの審査に当  
たった方の話では、最近のプロジェクトは人のまねが  
多く、独創的なものが少ないと言われておりますが、  
茨城県の3名の富士スカウトは、独創的なプロジェクト  
であり審査にあたった方からも文句なしに選定され  
たとのことです。

3名の富士スカウト諸君のこれからますますのご  
健勝と、立派な社会人として努力されることを心より  
祈念いたします。

## 第1回アセアンジャンボリーに参加

7,000の島々からなる常夏のフィリピンで開催され  
た第1回アセアンジャンボリーに茨城・大阪・千葉3  
県連のスカウトが参加し、その日本派遣団の団長に、  
堀江事務局長が日本連盟から任命され、平成5年12月  
28日早朝、成田空港を飛び立った。

茨城からは水戸2団の小鹿拓良隊長（団ではBS副  
長補）、茎崎第1団BS隊の

本田 恒崇 小池 徹 羽澄隆太郎  
の3君が参加された。



マニラ空港にて 茎崎1団のスカウト  
羽澄隆太郎君 小池 徹君 本田 恒崇君

開催場所は、マニラ空港からバスで2時間のフィリ  
ピン連盟のラグナ州にあるマッキリン野営場であり、  
私にとっては20年前に「ジュビリージャンボリー」に  
日本派遣団として参加した場所でもあり、懐かしい思  
い出の深い野営場でもあった。

台風のため30分遅れてやっと空港に着陸出来たもの  
の野営場は大荒れで止む無く郊外に宿泊することとし  
た。

29日に大阪隊6名と合流し設営をする。

千葉隊の副団長以下17名はこのまま参加せず、茨城  
と大阪隊の11名で日本派遣団を編成した。

今回のジャンボリーで特記すべきことは、国情不安  
定のためラモス大統領の命により、外国派遣団に国家  
警察の私服警察官（SP）が護衛につき、日本派遣団  
には2名の警官が護衛につき1名は団長専門で、もう  
1名は派遣団員にプログラムに参加する場合でも必ず  
護衛され、参加スカウトにとっては自由のきかない  
点では申し訳けなかった。

開会式も台風のため2日遅れて12月30日に、ラモス  
大統領（BS総裁）参加のもと開催されたが、アリーナ  
会場の周囲は武装した軍隊で固められ、軍用犬による  
「火薬」の探知など、物々しい警戒ぶりにはジャン  
ボリーとは思えない有様でした。



ラモス大統領との記念撮影

ラモス大統領

ノコン大会委員長  
堀江日本派遣団長

ラモス大統領とのレセプション会場には、会場内のSPと護衛SPが一人ひとり橋渡しして入り、大統領のあいさつと記念品の交換、各団長との記念写真を撮った後、別の会場でのなごやかな夕食会でしたが、SPの護衛は夕食会でも付きっきりでした。

しかし、2日に1回は町まで「ミネラルウォーター」などスーパー・マーケットに買い物に行くときや会場での移動は、護衛SPの覆面パトカーでサイレンを鳴らしての移動で大変助けられた。

12月31日は外国派遣団の夜で日本派遣団は「さくら踊り」を振り付けして踊り大喝采を受けた。

10時から午前2時まで「新年集会」で一晩中大賑わいました。

1月2日午後は、ミンドロ島のウイリアム佐藤氏のサイトに全員が招待されました。

佐藤さんは、30年前のジャンボリーでフィリピンの奥さんと知り合い（日本で富士スカウト13号）、奥さんは現在ミンドロ州知事で州のBS連盟長であり、豚の丸焼きなど山海の珍味をご馳走になりました。息子や娘さんたちは日本語が出来るため皆話しあいました。

全員に記念品をいただき、記念撮影をして一時を楽しみました。

今回の食料はかなり豊富で、缶詰や瓶詰類は食べきれず、毎日「冷凍エビ」「丸の鳥肉」果物・野菜の配給があり、2日毎に「牛肉」と「魚の切り身」も有ったが、米の20kgはまずくてタイ米以下で毎日チャーハンかおかゆとして味付けして食べた。

1kg日本円で13円のことでした。

時々配給になる「ナタデココ」の瓶詰には甘くて全員が閉口したが、食べ物は豊富であり感謝している。

日本派遣団には毎日のように来客があり、韓国の丁昌鎮さん（日本生まれの日本育ち）や、海外青年協力隊の山本さん、共同ニュースの山田さん、兵庫県連盟の新谷さん、香港団長の游柏華さん、シンガポール団長のJoseph Johnさん、タイランド団長のVitayaさん、ミンドロのウイリアム佐藤さんの娘さんなど多くの方が来訪され、忙しい日々でした。

各国のレセプションも

1月1日 韓国・シンガポール

1月2日 マレーシア・香港 に参加しました。

フィリピンの気候は、日中は35～38度で湿度が80%もあり蒸し暑いが、夜や早朝は寒いくらいで温度差がはげしく、乾季であるフィリピンも異常気象で、雨が多かったが暑さに悩まされながら全員が元気にマニラでの正月を迎ました。

初めての海外派遣を経験したスカウトたちも、警備の中での自由の利かないジャンボリーでも言葉の障害を乗り越えて楽しく過ごしたことは、人生の中での一つのよい思い出となったことだと思います。

最後の日にマニラのホテルに宿泊し観光をした際、マニラの市内を見学したが、年々悪くなっている市民生活を、参加した茨城のスカウトたちは「犬小屋」よりひどいとの一言で言い表しており、日本の生活の豊かさを感じたことと思う。

我々を護衛してくれたラリーさんもJALの飛行機の入口まで警備してくれたことは、感謝していいのか理解に苦しんでいる。

ラモス大統領

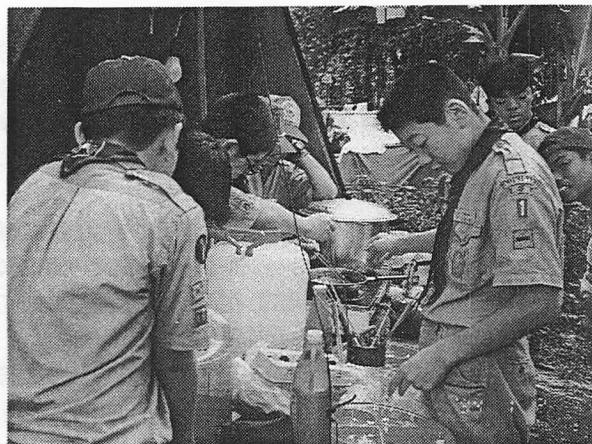
堀江団長



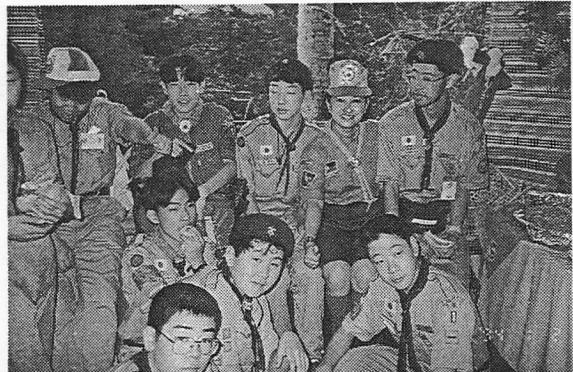
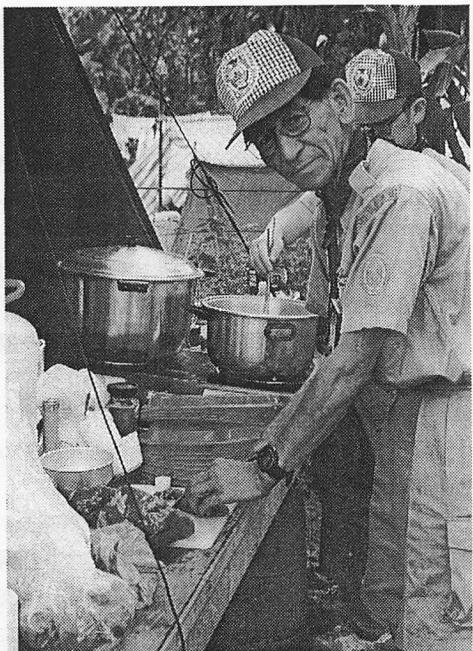
前列：ラモス大統領と大会本部役員  
後列：各国派遣団長  
最後列：国家警察のSP



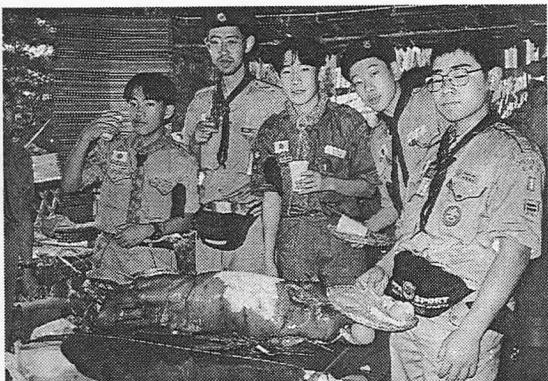
元旦の日本派遣団サイト 水戸2団の小鹿隊長



毎日の炊事風景



↑ミンドロ島州知事の  
ラミーズ佐藤さん(女性)と  
派遣スカウト



ミンドロ島での「豚の丸焼き」



# オーストラリア派遣下見旅行 ⇔ ⇔ ⇔ ⇔ ⇔ ⇔ ⇔

2月7日(月)成田国際空港18時に、吉田理事長・川又副理事長・堀江事務局長と案内役のJTBの合津教育課長が集合し、20時20分のカンタス航空170便で、7日間のオーストラリアの下見旅行が始まった。

しばらく実施出来なかった県連シニアースカウトの海外派遣をするための下見である。

2月8日火曜8時20分シドニー空港着。

今回の下見旅行の計画者である日豪文化交流協会の理事長の戸倉勝禮さんとシドニー空港で落ち合い、11時10分発の国内線のアンセット航空637便で首都のキャンベラ空港に着く。

30人乗りの小さなプロペラ機で揺れに揺れての飛行であり、日本では見られない小型機である。

6年前の世界ジャンボリーの時、ホームステイでお世話になったピンチバッックさんがわざわざ空港に出迎えられて懐かしく再会した。(堀江)

キャンベラのガイド兼通訳とともに戦争記念館と国会議事堂の見学、上院・下院の議会の開会中なので両議会を見学し、懐かしいキャンベラ市内のホテルで関係者との夕食会が始まる。

オーストラリア労働党の院内総務のラモント議員を初めとして州のボーイスカウト関係者や牧場主など総勢10名との2時間にわたる懇親をして日豪の友好を深めた。

最後にデビット・ラモント議員から吉田理事長初め我々3名に「キャンベラ名誉市民」の証書を戴く。

2月9日(水)9時にオーストラリア日本大使館に表敬訪問をし、天木直人公使と特命全権大使の長谷川和年大使と30分にわたり、シニアー派遣について協議する。長谷川大使は茨城の波崎町出身で、普段は公使しか逢わないが、大使に逢えることはめずらしいとの事で、理事長の甥が大使であった関係もあったのが逢えた原因とも思っている。

10時にキャンベラの需品部を表敬訪問し、11時にはオーストラリア連盟の国際事務局長のペリーマン氏と派遣についての場所やホームステイ先などについて協議して受け入れ体勢についてお願いする。

14時キャンベラ空港で戸倉理事長と別れ15時のアンセット131便のジェット機でメルボルンに着き、19時から国際コミッショナーのリチャード・シンプソン氏ほか3名との夕食会にのぞみ3時間にわたる協議と友好を深め、是非来るならメルボルンへと話がはずんで冗談も出て楽しい一夜でした。

今夜はゆっくりメルボルンのホテルで休み、2月10

日メルボルンのピクトリア連盟本部を表敬訪問し、州本部の各課の説明やビデオでの説明を受ける。14時メルボルン空港発シドニーに戻り、早速州連盟を表敬訪問し、コミッショナーや国際担当委員長・理事長等と協議し、場所や経費の面などでシドニーが一番適しているし、キャンプはシドニーならオーストラリアのスカウトとの親善キャンプも出来るとのことであった。

19時に日豪協会の戸倉理事長とともにニューサウスウェールズ州の協議した方々との夕食会をホテルで開催し、詳しい内容についてさらに協議して遅くまで話に花が咲いて再会を約して別れた。

2月11日は、オーストラリアに来て初めて自由な時間が出来、シドニー市内を観光し、11時シドニー空港発ブリスベン経由で夕方、ケアンズ空港に着き、ホテルでゆっくり過ごした。

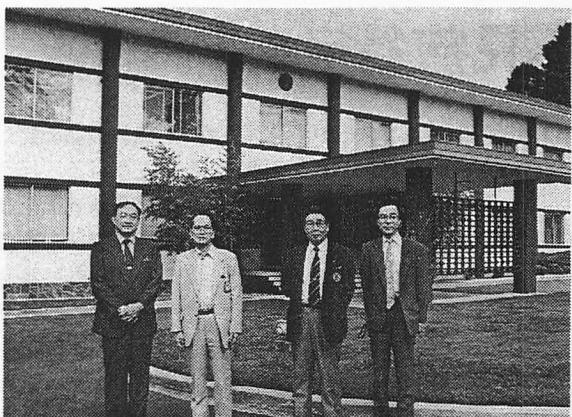
12日は1日休養し、バリアリーフとグリーン島へサンゴ礁を見学し、13日12時にケアンズ空港発で19時に成田空港に着いた慌ただしい下見旅行であったが、多くの方々との友好を深められた。



豪州労働党院内総務  
デビット・ラモント議員  
キャンベラのホテルにて



ラモント議員から  
キャンベラ名誉市民の証書を戴く吉田理事長



豪州日本大使館正門にて



長谷川大使と懇談

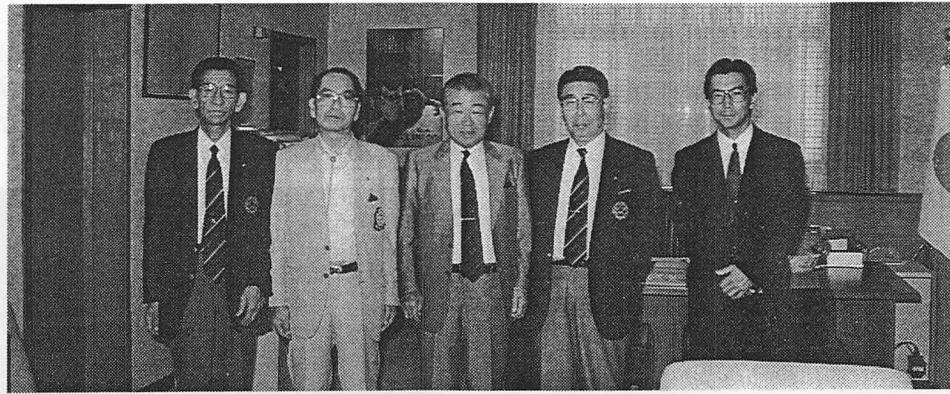
大使室にて

戸倉文会協会  
理事長

吉田理事長

川又副理事長

JTB合津課長



堀江事務局長

吉田理事長

長谷川大使

川又副理事長

天木公使

大使室にて

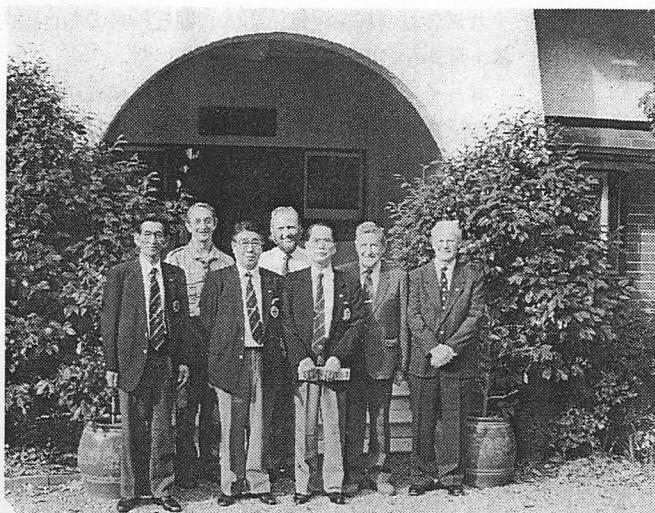


メリボルン連盟

シンプソン国際コミッショナーとの懇親会



メリボルン連盟事務所で活動状況の説明を聞く



サウスウェルズ州（シドニー）連盟の正門にて州役員と



シドニー連盟に記念品を渡す吉田理事長



シドニー州連盟役員との懇親会

## 茨城県連盟 シニアースカウト 海外派遣

しばらく開催できなかった、茨城県連盟主催のシニアースカウトの海外派遣について、オーストラリア連盟と日豪文化交流協会戸倉理事長のご協力により、平成7年3月の春休みに実施するために、現在、白土S・R・S特別委員長により準備委員会で詳細について検討中であり、すでに旅行会社2社と費用の概算とプログラムの内容を検討しており、近く募集する予定であります。

# ウッドバッジ研修所

- ▶ カブスカウト課程 茨城第23期
- ▶ ボーイスカウト課程 茨城第20期

平成6年5月1日～4日 於・土浦市

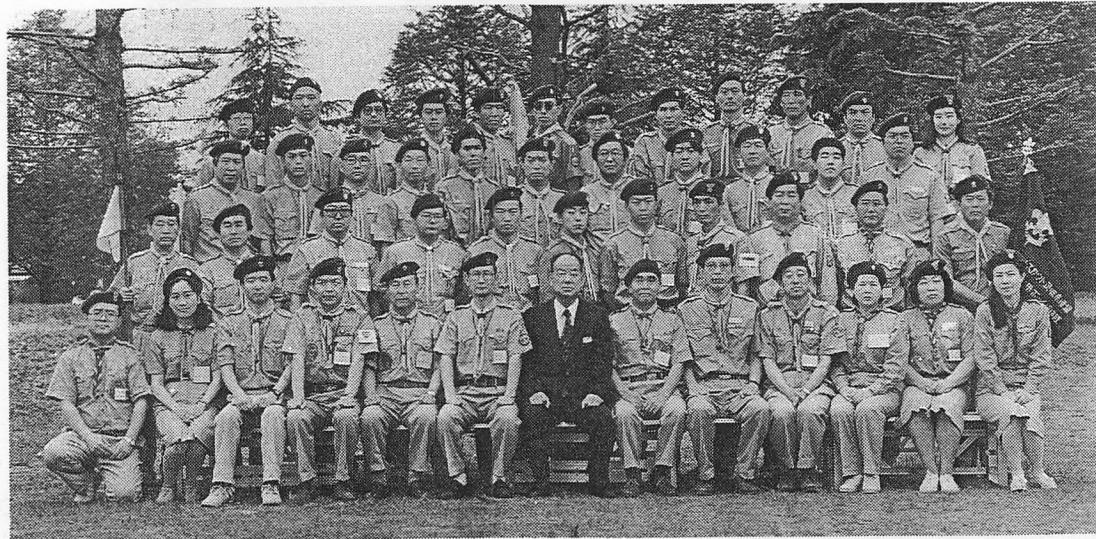
カブスカウト課程第23期は、堀江所長のもと県内24名、県外5名の29名が修了されました。

ボーイスカウト課程第20期は、小林成敏所長のもと県内23名、東京7名の30名が修了されました。

場所は土浦市の「土浦市青少年の家」で、第5地区的飯村地区委員長はじめ5地区の多くの指導者が献身的に奉仕され、スムースに業務が出来まして、楽しく実のある研修所が運営できました。



ウッドバッジ研修所 カブスカウト課程 茨城第23期



ウッドバッジ研修所 ボーイスカウト課程 茨城第20期

## 編集後記

広報特別委員長が不在のため、早くに第10号を発行すべく努力いたしましたが、日本ジャンボリーの準備などに追われ、大変発行が遅くなりましたことをお詫

びいたします。

第11号は久住高原で開催された第11回日本ジャンボリーの特集号を計画しておりますので、参加されたスカウトと指導者の皆様から原稿を募集する予定であります。

茨城県連盟事務局